

東京金山会通信

【問合せ】 東京金山会 広報担当 藤山 ☎080-5525-0435

No.83

縄ない体験ワークショップを開催しました

1月24日、NPO法人MOYAの石井美加さんを講師にお迎えし、東京金山会有志による「縄ない体験ワークショップ」を開催しました。当日は、曇に触れながら一本一本縄をなっていく作業に、参加者は集中しつつも、自然と会話が生まれる和やかな時間となりました。「子ども頃に祖父に手伝わされたのを思い出した」「昔は当たり前だったけれど、今では貴重な体験だね」といった声も聞かれ、思い出話に花が咲きました。

完成したのは、藁で持ち手を編んだ「もがみの米袋トート」。編み方や表情にそれぞれの個性が表れ、参加者一人ひとりの仕事の魅力が感じられる仕上がりとなりました。

今回使用した藁は、舟形町の矢野さんが育てた、無農薬・無肥料・天日干しの稲藁です。現在では、このような方法で作られる藁は地域内でも生産者が限られており、一般的にも希少価値の高い貴重な素材となっています。無農薬の藁に直接触れ、手仕事を行う体験そのものが、今では得がたいものとなっています。

今回のワークショップを通じて、金山にゆかりのある皆さんにも、藁や手仕事を持つ価値をあらためて感じていただく機会となれば幸いです。今後も東京金山会では、こうした最上の文化を、首都圏でも少しずつ広げていけたらと考えています。



1 完成したトートバッグを手に笑顔の参加者
2 縄ないを楽しむ参加者。約6名がワークショップを体験しました。

図書室だより



◀新刊本情報はこちら

今月のおすすめの2冊はこちら

あれ？

unpis / 小学館

コップを倒してしまった…。あれ？水がこぼれない！顔を洗った…。あれ？のっぺらぼう！？トーストにバターをのせた…。あれ？？なんだかおかしいぞ。人は無意識のうちに、次の展開を予測している。固定観念に捉われず、物事を考える事も大事かもしれません。



龍の守る町

砥上裕将 / 講談社

5年前の豪雨水害によって消防士秋山は、大切な人たを救うことが出来なかった事をきっかけに、トラウマとなり水に対する恐怖を抱くようになった。現場での救助活動に困難を感じている時に指令室へ異動。消防士としてこれから、どのように立ち向かっていくのか。



今月は8冊

あれ？ (unpis) / もじもじモンスター (キリーロバ・ナージャ) / 吉田類の愛する低山30 (吉田類) / 自分らしく考え、生き抜くための正解のない問題集 (池上彰) / その日まで (瀬戸内寂聴) / ひとりの夜にあなたと話したい10のこと (カシワイ) / 龍の守る町 (砥上裕将) / 身から出た闇 (原浩)

※ () 内作者名

二年目の活動を振り返って



◀日々の活動の様子は Instagramで発信中です



地域おこし協力隊 大友 淳

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の大友淳です。あつという間に一年が過ぎ、二年目の活動も無事に終えることができました。今年度を振り返ると、本当に多くの方々から支援をいただき、本当にありがとうございました。

私のミッションは「神室エリア一帯の魅力化」です。運営として関わったカムロビュッテ、SUP(サップ)体験、バイオリンコンサートのディナーショーをはじめ、カムロフイッシュヤーマンズブロッジや神音、産業まつり、神室雪まつりなど、神室エリアではさまざまな取り組みが行われました。その結果、イベントや施設を訪れてくださった方々の延べ人数は、およそ7,000名にもなりました。一年前には想像もできなかった数字であり、多くの方々の支えと協力のおかげだと実感しています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

来年度は、これまでの経験を活かしながら、さらに神室エリアの魅力を発信し、より多くの方に訪れていただけるよう取り組んでいきたいと思っています。自然、食、文化、人のつながりを大切にしながら、神室ならではの体験をこれからも育てていきます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



▲神室のシンボル神室山



▲神室雪まつりでのバナナボート体験



▲夏の神室ダムSUP体験

ぶんげい

金山杉俳句会 第五〇八回

阿部 一代
陽を浴びて今日を名残りのぼたん雪
東風吹いて木の芽優しくくすぐりぬ

星川 キエ子
線引けばとうに余生や初日記
煩惱を飲み込み流す冬の雨

岸 昭子
初釜や厳かなりし背すじ伸び
吹雪く中帽子目深に歩き出し

高橋 洋子
初鏡老いあらがわず紅を差す
寒菊のはのかに香る文机

鶴沼 よし子
ふるりの町史めぐりて三ヶ日
夫と来たこの道信と恵方拝

栗田 弥超
もの芽のどれもが競ふ自己主張
春の鴈早瀬越えきて里に啼く

金山杉俳句会 事務局より
金山杉俳句会(第505回)「第506回」の掲載において、高橋さん・岸さんの句が入れ替わっておりましたので訂正いたします。

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
降る雪も三寒四温の立列
夢枕今日の一日を願ふ朝
春告げる小川岸辺の猫柳

荒屋 関 喜美子
畜舎には子牛誕生祝い酒
春浅し囲ひの中に木の芽吹く
日脚伸び会話もはずむ花言葉

菅越 庄司 けみ子
降り積る道幅狭める通勤路
凍結路急ぐなあせるな雪の道
春浅き三寒四温軒つらら

七日町 青柳 キエ子
大雪や庭木もうすもる狭庭かな
寂しさを寒九の雨もひたひたと
ゆずり葉も恩師を偲ぶ春の雪

上台 阿部 一步
一人寝の人肌恋しい冬の夜
思い出や、昭和は遠く成りにけり
和らかく東吹風の春日岸